

# STEP-UP

平成25年度 第1号12月  
大田区立幼児教育センター  
幼児教育担当(5744-1618)

運動会、学芸会と大きな行事を越える毎にたくましく成長する子どもたち。更なる成長に向かって先生方の指導にますます熱が入りますね。今年度も既にいくつかの研修会が終わり、参加された方々の話し合いから貴重な資料が生まれています。今号では、幼児教育センターがかかわった保幼小連携合同研修会のまとめと、1学期から計画的に保幼小交流を行っている機関の活動の様子をご紹介します。

## 保幼小連携合同研修会(7~8月) 一保・幼・小の滑らかな接続に向けて

【協議会テーマ】 自分で考えて行動する子どもを育てるために必要な指導の工夫や手立てについて

(子どもが) 自分で考えて行動して欲しいと思う姿や場面 一集団の一員として一	
話を聞く  思いや考えを伝える  必要な言葉を遣う  生活の見通しをわかつ	<p>○全体への話を自分のこととして聞けない。                      ・最後まで聞かない。知っていることや思ったことなどを勝手に言う。                      ・話を聞かず、周囲の動きを真似て間違う。                      ○指示や説明を受けても、個別に確認や了解を求める。                      ・「何々していいか、次はどうすればいいのか」と聞く。                      ○自分の気持ちや考えを言葉で表さない。                      ・考えようとせず指示を待つ。                      ・単語だけで要求等を伝えようとする。                      ○困っている時、状況や気持ちを説明できない                      ・忘れ物、怪我、失敗した時に「だからこうしたい、こうして欲しい」等、必要な言葉を言えない。                      ○見通しをもって行動できない。                      ・周囲の動きを意識せず、食事、着替え、身支度、片付け等に時間がかかる。                      ・生活の優先順位が分からない(「自分がやりたいこと」に流される)。                      ○毎日繰り返し行うことが習慣化されない。                      ・登下校、登降園時の身支度、トイレに行く時間、集合、活動準備と片付け、掃除等</p>
	<p>★それはどうしてだろう? ★大事にするものは何だろう?                      ☆理由 (～だからではないか)                      ○集団の一員としての意識が育っていない。                      ・集団の中では、自分の思うとおりにできないと感じている。                      ・大人の指示が多く、考える習慣が付いていない。                      ○保幼との生活の間にギャップを感じている。                      ・どんな場面で、何をしたらいいのか分からない。                      ・同じようなことでも、保幼でしてきたことと小学校で行うことが違うように感じ、迷う。                      ○言葉だけではイメージが湧かない。                      ○失敗経験が少ない。失敗を責められることが多い。                      ○保幼の最高学年から小学校の最年少になり、面倒を見られ過ぎる。                      ★大事・必要と思うこと (安心・安定を基盤とする)                      ○教師と子どもとの信頼関係を結ぶ。                      ○計画的で多様多彩な指導を行う。多くの成功、失敗体験を重ねる。                      ○見通しがもてる環境を構成する。                      ○言いたい気持ちが湧いてくるような活動を意識的に取り入れる。                      ○仲間意識を育てる協同的な活動を大事にする。</p>
	<p>必要と思われる手立てや配慮・実際に行っている手立てや配慮</p> <p>○学級の仲間と、必要な物事を話し合っって進める活動を計画的に提示する。                      (保幼=協同的な活動 小=いろいろな形の班活動)                      ・子どもが考える時間を確保し、見守りながら繰り返し指導する。                      ・自分(たち)は何がしたいか、何が必要か、今は何をやる時か等を考える。                      ○「話したい気持ち」を育て、「話す機会」を設ける。                      ・子どもの話をよく聞く。                      ・日直や当番活動でスピーチやインタビューを行い「話す・聞く」ことに慣れるようにしていく。                      ○活動の手順や生活の見通しがもてるよう工夫する。                      ・絵、図、板書など、視覚的な掲示を活用する。                      ・友達や周囲の動きに気付かせる。                      ○自己有能感がもてるようにする。                      ・それぞれの保幼で経験が異なるため、小学校で新たにスタートする心構えで指導する。                      ・保幼での育ちを活かし、できるだけ自分でやらせたり、仕事を任せたりする。                      ・結果より過程を大事にし、「間違える」ことへの不安を解消する。                      ・成長欲求が湧くような言葉かけや関わり方をする。                      ○生活の中で必要なこと、大事だと思うことを学級の目標として掲げる。皆で達成した時の「お楽しみ」を用意する。 例) 挨拶や「ありがとう、ごめんなさい」を言おう、時間内に片付けようなど。                      ○家庭との連携を図る。                      ・子どものプラス面や成長の姿を伝える。                      ・学級便りなどを通して、親子が触れ合うことで子どもにより習慣が身に付くような課題を提示する。 例)「親子で会話しながら明日の準備をする」など。</p>



研修協議会での話し合いの内容を抜粋しました。

# 保幼小の交流活動 ～つながりを意識して～

## 音楽科・図画工作科を通して

### 歌・リズム遊び（音楽科）

<7月 1年生と5歳児 リズムを楽しむ>



♪みんなで一緒に歌って踊る

年長児一人に1年生二人が付き、遊び方を教えます。普段は恥ずかしがり屋の1年生にも、年長児が理解するまで、動きや言葉で優しく丁寧に教える姿が見られました。

「この歌、知っている。さんぼだよ！」  
「皆さん、一緒にやってみましょう。」  
専科教諭の呼びかけに笑顔で応え、教わった振り付けで歌います。



「おちゃらかほい！」  
って面白いね。

### 構成遊び（図画工作科）

<9月 2年生と5歳児 構成を楽しむ>

2年生と年長児それぞれ3～4名ずつのグループになり、「何を作るか、園児の希望をよく聞いて決めた物」をテーマにし、木片を使って作る。一人なら自分で考えた物を自由に作れるけれど、「一緒に作る」ことはとても難しい。

「何を作りたいの？」（2年生）  
「お城」「遊園地」「ゲーム」「分かんない」（年長児）  
答えが出ない年長児にも優しく辛抱強く聞きます。始めはぎこちなかったかかわりも、木片を手に取り進むうちに言葉を交わすようになり、最後は力を合わせて作るようになりました。



作ったおもちゃで遊び、和気あいあい



ここ、押さえてあげるね。

### <年間計画への取組>

昨年度の終わりに、2年生と近隣の保育園4歳児との交流を行ったことをきっかけとして、本年度は1学期5月から1、2、5年生と4～5歳児との年間交流計画を立てました。

### <遊びを学びと捉えて>

特徴として、「遊びを通して学ぶ」保育園・幼稚園の生活に沿い、保幼での「歌・リズム遊び・絵画製作」とのつながりを考慮して、音楽科・図画工作科の専科の授業で交流を行いました。

### <切れ目のない支援に向けて>

実際の交流場面では、保幼とのつながりを意識した活動内容を入れることで、幼児教育と小学校教育との類似点・共通点・相違点を感じ取ることができました。保幼から小への滑らかな接続には、各機関でどのような指導・支援が必要かということを考える機会となっています。

## 行事で発揮した力を活かして

<7月 1年生と5歳児 1年生のダンスに憧れる>



格好いいな、1年生のダンス!

1学期（5月）に運動会を行った1年生が、自分たちの踊ったダンスを5歳児に披露してくれました。5歳児は、3学級の1年生が法被姿で踊る姿に「かっこいい」と思いを寄せ、掛け声の迫力にすっかり引き込まれていました。さらに、ダンスの曲に合わせて手拍子を打ったり、メロディーを口ずさんでみたりしながら、1年生と一体になってダイナミックな表現を楽しんでいる様子でした。すっかり小学校の運動会気分を味わった5歳児から



みんなでゲームを楽しむ

からは、ダンス終了後「アンコール!」「自分たちも踊ってみたい!」という声がありました。学年全体で力を合わせて表現する1年生の姿から刺激を受け「今度は自分たちの運動会だ!」という意欲につながったようです。

## ありがとうございました

取材協力

- 田園調布保育園
- 田園調布二丁目保育園
- みたけ幼稚園
- 調布大塚小学校
- 大森みのり幼稚園
- サムエル幼稚園
- 馬込第二小学校